



## 三重県初！ JICA 海外協力隊(民間連携) 隊員派遣 鳥羽水族館職員がパラオ出発前に市長表敬

開発途上国の経済と社会の発展に貢献するため、独立行政法人国際協力機構（JICA）は現在、1926人のJICA海外協力隊員を92か国の開発途上国へ派遣しています。

去る4月22日、鳥羽水族館とJICAは三重県で初となる協力隊派遣連携合意書に署名しました。

このたび、鳥羽水族館職員の杉本幹氏が、70日間の派遣前訓練を終え、三重県初のJICA海外協力隊(民間連携)隊員として、2年間パラオ共和国へ派遣されることになりました。同国唯一の水族館である「パラオ国際サンゴ礁センター(Palau International Coral Reef Center, 通称PICRC)付属水族館」にて、海洋資源保護、環境保全に関する教育活動等の指導に従事しパラオの海と海洋生物を守るため活躍します。

来年1月初旬の出発に先立ち、鳥羽市役所を訪問し、中村市長に出発を報告することとなりました。市長表敬取材いただきたく、ご案内申し上げます。

**件名：** JICA 海外協力隊出発前表敬

**日時：** 2019年11月25日(月) 13時30分～14時30分

**場所：** 鳥羽市役所 市長室

**表敬者：** シニア海外協力隊員 杉本 幹(すぎもと みき)氏  
(鳥羽水族館企画広報室部長兼室長)

**派遣国：** パラオ **職種：** 動物学

**応対者：** 鳥羽市長 中村欣一郎氏

**同行者：** 鳥羽水族館 代表取締役社長兼館長：奥出協(おくで かなう)氏  
JICA 中部 所長 長 英一郎(ちょう えいいちろう)

本協力はCOP10愛知目標の生物多様性の保全およびSDGs(持続可能な開発目標)のゴール14「海の豊かさを守ろう」にも大きく貢献するものと期待されます。



また、本年は日・パラオ外交関係樹立 25 周年にあたり、本協力は日本とパラオとの更なる友好の懸け橋の一助となることでしょう。

※JICA 海外協力隊(民間連携)とは、開発途上国でのビジネスや CSR 活動の展開のため、グローバルな視野や素養を備えた人材の育成を図りたい企業と、途上国の課題解決に必要な技術や経験を備えた人材を求める JICA が連携し、企業の社員を企業のニーズに応じて JICA の海外協力隊として派遣する制度です。

| 【本件に関する問い合わせ先】 |   |
|----------------|---|
| JICA 中部連携推進課   | 熊野 TEL 052-533-0120 e-mail : <a href="mailto:cbictpd@jica.go.jp">cbictpd@jica.go.jp</a> |
| 株式会社鳥羽水族館      | 副館長 若井 TEL 0599-25-2555(代)  |